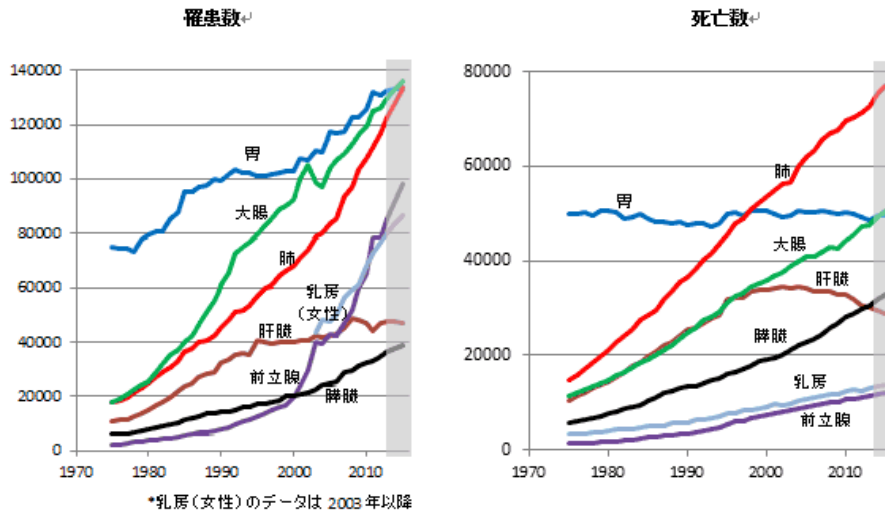


## 第 17 回 庄の原健康講座 「大腸がん」

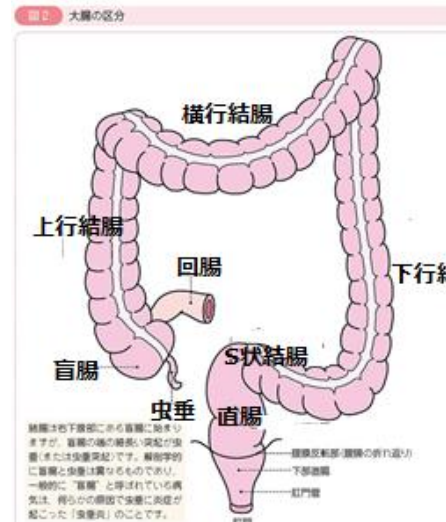
大腸がんは下のグラフに示す様に肺がんとともに近年増加しています。今回の講座では大腸がん全般について分かりやすく解説したいと思います



### I. 大腸とは

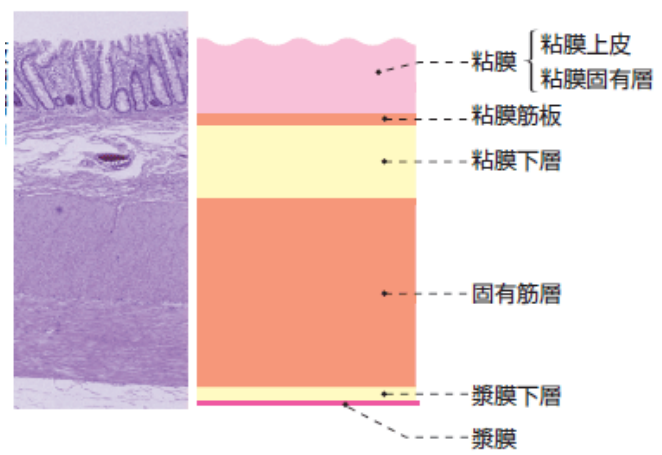
大腸は小腸に続く消化管で全長は約 1.6 メートルあります。そして、盲腸、上行結腸、横行結腸、下行結腸、S 状結腸、そして直腸に区分されます。

食物の消化吸収の殆どは小腸までで行われています。大腸は吸収されず残った食物の水分を吸収して、それを適度な硬さの便にするのが主な役割です。



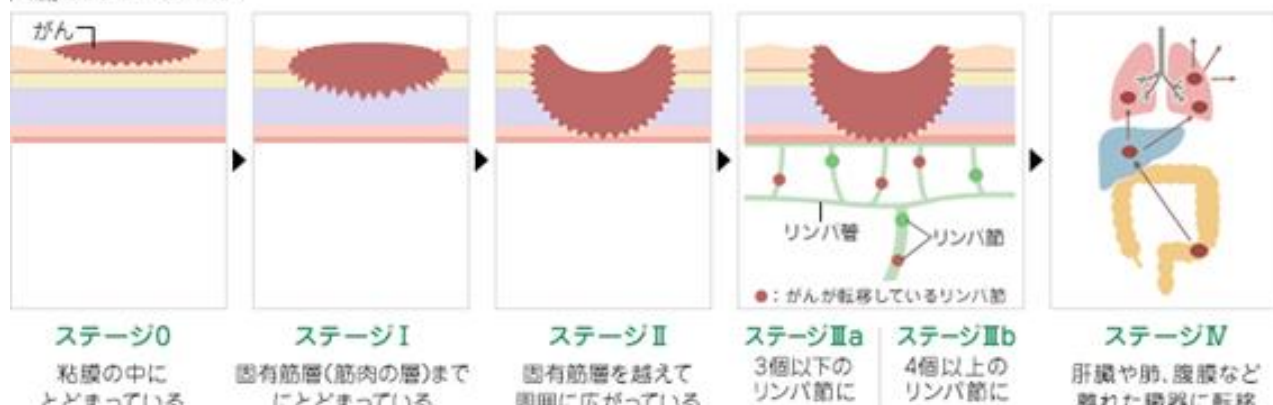
### II. 大腸がんの病理

大腸壁は右図の様に 6 層より構成されています。大腸がんは一番内側の粘膜上皮と呼ばれる細胞から発生します。

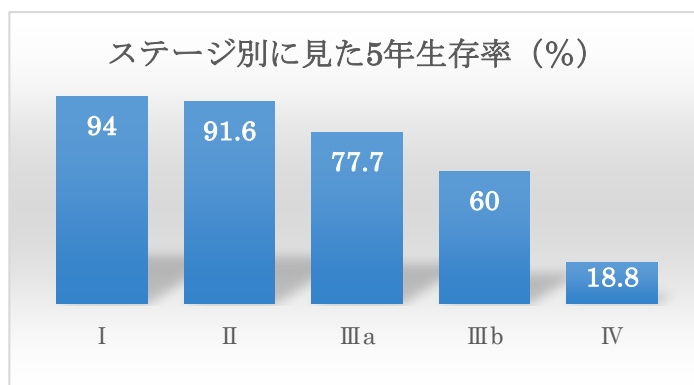


大腸がんの進行度は癌が大腸壁のどの深さまで進んでいるかと大腸以外にどこまで広がっているかで判定します（ステージ分類；下図）。

大腸がんのステージ

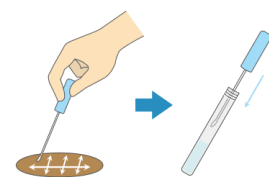


ステージ別に見た大腸がんの5年生存率を下グラフに示しています。大腸がんは早期であればほぼ完治する事が出来、進行するに従い予後が悪くなる事がお分かりいただけるとと思います。大腸がんは**早期発見が非常に重要**です。



### Ⅲ. 大腸がんの早期発見

大腸がんは基本的に**無症状**です。症状が出るのは癌がかなり進行した時です。大腸がんの早期発見には定期的な**大腸がん検診を受ける**しかありません。大腸がん検診は便に血液が混じっていないかを見る**便潜血検査**を行います。2回の便を調べるのが一般的です。検査法は図に示す様にいたって簡単です。一回でも便潜血が陽性の場合精密検査を行います。便潜血陽性が必ずしも大腸がんを意味するものではありません。便潜血陽性の方で実際に大腸がんがあった方は0.1~3%程度です。しかし、40歳以上の人がこの便潜血検査を毎年受ける事によって大腸がんによる死亡確率を40~60%減らせる事が証明されています。もし便異状などの腹部症状がある時は最初から大腸精密検査を受ける事も重要です。



## IV. 大腸精密検査

### (1) 大腸ファイバースコープ検査

肛門よりファイバースコープを挿入し、先端のカメラからの映像で大腸全体を直接観察する事が出来ます。この検査の利点は病変があれば組織検査のための組織採取ができます。また、大腸ポリープがあればその場で切除治療も可能です。

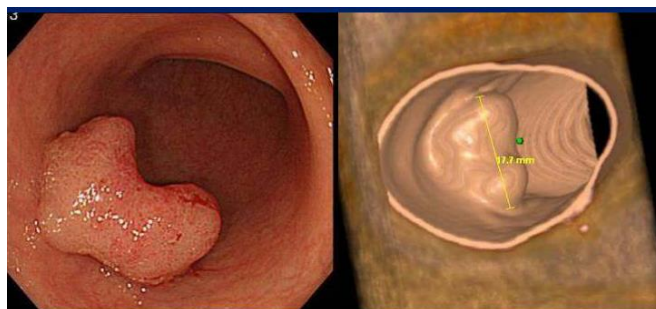


### (2) 大腸 CT 検査

マルチスライス CT で大腸を撮影し、それをコンピューター処理によって大腸の三次元画像を作成して病変の有無を見る方法です。

大腸ファイバーより苦痛もなく簡単に行える利点があります。

しかし、一方で放射線の被曝、色調が確認できないため病変と便の鑑別が出来ない場合がある、病変が確認された時には再度大腸ファイバーを行う必要があるなどの欠点もあります。また、この検査は大腸ファイバーほど広く普及していませんので、検査が出来る病院は限られています。

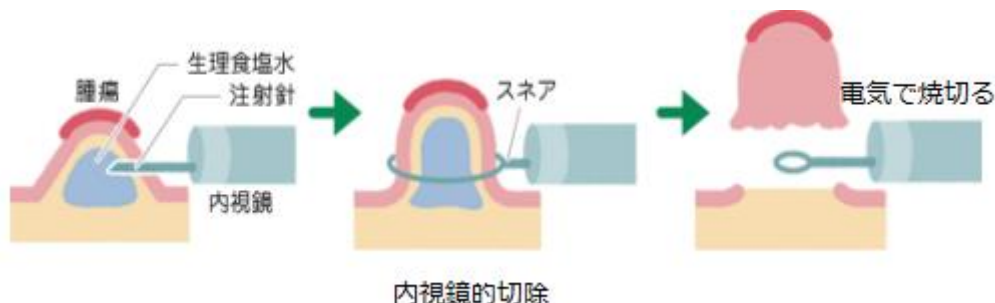


大腸ファイバー

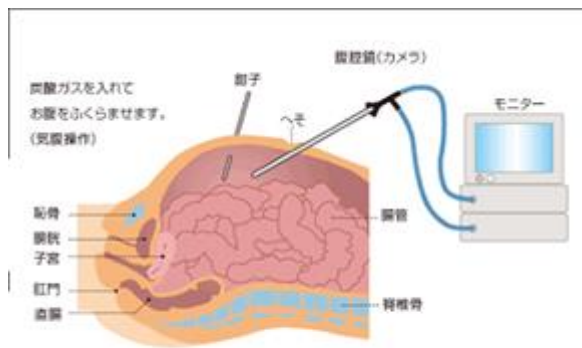
大腸CT

## V. 大腸がんの治療

大腸がんの根本治療は癌を切除する事です。切除の方法はがんの進行度によって決定します。癌が粘膜内（ステージ0）もしくは粘膜下層までで留まる（ステージI）の場合は内視鏡で切除します。ただし、ステージIでもがんの深度が粘膜下層の深部までの時はリンパ節転移の可能性があるのでリンパ節廓清のため手術が必要になります。



ステージⅡ、Ⅲは手術による切除となります。手術には開腹手術と腹腔鏡手術があります。腹腔鏡手術は開腹せずに行えるため患者さんへの侵襲は少ないのですが術者に熟練した技術が必要です。癌の進行度によっては手術後に抗がん剤での治療を行う事もあります。



腹腔鏡手術の仕組み



実際の腹腔鏡手術の様子

大腸がんが他臓器に転移している場合（ステージⅣ）の時は原発巣、転移巣いずれも切除可能であれば手術を行います。さらに抗がん剤治療や放射線治療を行います。切除不能の時は抗がん剤治療や放射線治療のみを行います。

## Ⅵ. 大腸がんの予防

大腸がんの中には家族性に発症するものがあり、発症原因となる遺伝子が特定されています。しかし、この様な大腸がんの頻度はわずかで、大部分の大腸がんの発症原因はいまだ不明です。ただし、生活習慣によって大腸がん発症リスクを下げられる事が分かっています。

### ①運動と肥満の予防

肥満者に大腸がんの多い事が分かっています。適正体重で内臓脂肪の少ない人の大腸がん発症リスクはそうでない人に比べ 1/3 と言われています。また、運動をしない人は運動をする人に比べ発症リスクは 3 倍高くなると報告されています。

### ②緑黄色野菜や魚を中心に食物繊維、カルシウム、ビタミンDの多い食事が大腸がん予防に良いとされています。

### ③化学的予防

最近、少量の非ステロイド系抗炎症薬（NSAIDs）内服に大腸がんの発症を抑制する効果がある事が明らかになってきました。ただし、その有効な使い方はまだ確定していません。NSAIDsには消化性潰瘍や腎障害などの副作用もあるので安易な使用は慎む必要があります。